



秋田はきっと良い日が来る

[秋田市観光クチコミ大使]

(株)トッキー 常務取締役

お また やす のり
小 俣 康 則 氏

秋田での思い出

平成27年6月着任の日、秋田出身の義父に東京駅でのサプライズ見送りを受け、不安と希望を胸に、こまちで秋田に向かった日の事、そして出張では何回か訪れた秋田でしたが、降り立った駅前の寂しい風景に驚いた事を今でもはっきりと覚えています。

山梨の田舎出身の私は秋田の若者と同様、東京に憧れ大きなマーケットで仕事をしたいと希望し、入社以来25年間東京で仕事をしてきました。しかし秋田での仕事と生活が私の人生観を180度変えることになるのです。

駅ビルとメトロポリタンを運営する会社に勤務しましたが、中心市街地活性化を目的とした「ノーザンステーションゲート秋田」の旗のもと、駅ビルと駐車場の改修に取り組みました。また、節目の周年を迎える会社の経営改善という事で意識改革や前向きな施策に一丸となって取り組んで頂いた社員の皆様には本当に感謝をしています。

それから公私にわたり、温かく楽しい時間を過ごさせて頂いた秋田の皆様には感謝以外の言葉は見つかりませんが、これからもっと恩返しをしなければならぬとの思いを強くした矢先の平成29年の夏に、サラリーマンの悲哀である新潟への転勤命令が。

新潟での仕事

新潟駅は百年に一度という規模の大工事が進行中です。私はその変わりゆく新潟駅の中に、商業施設や県内外の方が交流できる施設の開発を担当しています。秋田駅も私が離れた以降も様々な施設が開業し、27年ぶりに駅前の地価が上昇したというニュースは本当にうれしいものでした。新潟県も今後地方の課題は進行していくので、駅を中心とした街づくりによって活性化をしていきたいというのが、

私が秋田での経験によって思いを強くした今後の使命だと思っています。

ご承知の通り新潟は日本酒王国ですが、日本酒の会には必ず秋田の酒を持っていきPRしています。アウェイではありますが、クチコミ大使の役目ですし、秋田のほうが「美人だ」「郷土料理が美味しい」「お祭り文化がすごい」等、ムキになって話をしている自分は、もはや秋田人です。

地方の時代は来る

私の家は東京にありますが、オリンピックの開催を喜ぶ一方で生活するにも仕事をするにも相当不便な状況になると予想しています。テレワークが推奨されていますし、現実これを機に進行していくと思っています。仕事をする場所を選ばない時代が来るとすれば、絶対豊かな地方はチャンスですし、事実新潟でもIT系の会社が移転してきたという話を聞いています。それが故に各地方の「豊かさ」の魅力度がキーになります。秋田には他には負けない魅力がたくさんありますが、その魅力を表現出来る場がもっと生まれると全体としてのおもてなし力が上がると考えています。思いを持った方が交流する場の開設と起業や既存のアセットを活用する支援等が更に活性化すればと願っています。私は「豊かさ」とは何よりその土地の人間力であると思っていますので、それこそ秋田の最大の強みであると確信しています。

■略歴

昭和42年	山梨県大月市生まれ
平成 2年	筑波大学基礎工学類卒業
同 年	東日本旅客鉄道株式会社入社
平成27年	秋田ステーションビル株式会社 代表取締役社長
平成29年	現職